

平成30年度 島根県立隠岐養護学校 学校評価報告書

教育目標
児童生徒一人一人の障がいや発達に即した適正な教育をおこない、仲よく、明るく、たくましい人間への成長発達をめざす。
学校経営方針
(1) 児童生徒一人一人の教育的ニーズに即した教育課程を編成、実践する。実践にあたっては行事との相乗効果を図る。 (2) 児童生徒が主体となる異年齢活動を展開する。 (3) 関係機関との連携を図り、自立と社会参加に向けた学習を積み上げる。 (4) 地域における特別支援教育のセンター的機能の充実を図る。 (5) 機会をとらえ、特別支援教育に対する地域の理解を進める。
平成30年度教育内容の柱
(1) 健康な身体づくりと基本的な生活習慣の確立 (2) 自分の意思を表現し、主体的にかかわっていきこうとする力の育成 (3) 集団的な活動をおとして、他者と協働する力の育成 (4) 自立に向けての生活力・働く力の育成

整理番号	質問項目	評価	概評
1	先生は、授業中わかりやすく教えてくれていますか。	69.2%	<ul style="list-style-type: none"> 授業についての評価は、昨年度に比べて低下している項目がある。設問1については、授業改善を行い、児童生徒が「わかった、できた」と実感できるよう、また「もっとやりたい」と思えるような授業を目指していきたい。 学校に来ることを楽しみにし、授業や行事に楽しさを感じている児童生徒が多い。これは設問12～15にあるように、児童生徒と教員の関係性が良好であるということや児童生徒本人が成長を感じることができていることからきていると考える。今後も児童生徒と教員のよりよい関係を築きながら、将来に向けた力をつけていく取組を継続していきたい。 設問6、7で見られるように、学校のルールや決まりについて、児童生徒は指導を受け、守っているという評価をしている。しかし教員評価においては児童生徒のふるまいの向上に向けて根気強く継続して行っていくことが必要と感じている。 いじめに関しては、重大な事象はないものの、児童生徒同士で気になる言動が見受けられることがある。今後も生徒指導部や各学級で連携し、全教職員で早期発見、早期対応に心がけ、相手の立場になって考えることを指導していきたい。
2	できた、わかった、もっとやりたいと思った授業はありましたか。	50.0%	
3	授業や学校行事は楽しいですか。	73.3%	
4	授業や学校行事にすんで参加したと思いますか。	63.6%	
5	学校(教室)に毎日行くことは楽しいですか。	71.4%	
6	先生は、学校のきまりや社会のルールをきちんと指導してくれていますか。	92.9%	
7	あなたは、学校のきまりなどをしっかり守ったと思いますか。	92.3%	
8	あなたは、すずんで挨拶をしたり、言葉づかいに気をつけたりすることはできましたか。	81.8%	
9	あなたは、学校のクラスの友達や先輩、後輩にいじわるをされたことがありますか。	15.4%	
10	あなたは、学校のクラスの友達や先輩、後輩にいじわるをしたことがありますか。	38.5%	
11	あなたは、学校のクラスの友達や先輩がいじわるされているのを見たことがありますか。	18.2%	
12	先生は、進路や友人関係などで、困った時、悩んだ時に話をしっかり聞いてくれますか。	81.8%	
13	先生は、いつも気にかけて声をかけてくれていると思いますか。	76.9%	
14	学校の勉強や生活は、自分の将来に役立つものと思いますか。	83.3%	
15	学校の勉強や生活をおして、昨年よりできることが増えたと思いますか。	83.3%	
16	教室、作業室、体育館、校庭、トイレ、プレイルームなどは使いやすいですか。	85.7%	

◆評価の数値(%)・・・総数(無回答・5を除外)における肯定的意見(1・2)の割合 1 そう思う 2 思う 3 あまり思わない 4 思わない 5 わからない
※設問9、10、11は、1 ある 4 ない 5 わからない

◆評価の数値(%)＝総数(無回答・5を除外)における肯定的意見(1・2)の割合 【評価基準】 1：十分達成できている(そう思う) 2：おおむね達成できている(だいたいそう思う) 3：どちらかといえば達成できている(検討すべきである) 4：ほとんど達成できていない(改善すべきである) 5：わからない
◆4段階評価 A：十分に達成できている B：おおむね達成できている C：どちらかといえば達成できていない状況 D：ほとんど達成できていない状況(教職員評価と保護者評価を点数化し、平均点が満点の90%以上をA、70%以上をB、60%以下をDとする)

分掌等	教職員評価		保護者評価		自己評価		学校関係者評価		
	評価項目	中間評価	評価項目	評価	4段階評価	評価・改善点等	4段階評価	概評	
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 教職員が「学校経営方針」を意識して、職務に取り組むことができたか。 教職員は職務に対して早めの提案を意識し、実践・改善のPDCAサイクルに取り組むことができたか。 	100.0% 93.1%	100.0% 100.0%	<ul style="list-style-type: none"> 本校の教育活動を通して、お子様の成長・発達が見られましたか。 教職員は児童生徒の活動について保護者に分かりやすく伝えていましたか。 	100.0% 100.0%	B	<ul style="list-style-type: none"> 教職員が学校経営方針を意識して学校運営に取り組んでおり、保護者からも児童生徒の成長が見られたと評価されている。今後も学校経営方針を意識できるように職員会議等で取り上げていきたい。教職員は早めの提案に心がけ、実践・改善にも取り組んでいた。また保護者に対する活動の説明も分かりやすく伝えることができていた。今後も引き続き実践していきたい。 	A	
小中学部	<ul style="list-style-type: none"> 日々の送迎や連絡帳、懇談や学担保育士連絡会などを利用して、個々の実態を把握したり、支援方法を共通理解したりしていたか。 	96.0%	100.0%	<ul style="list-style-type: none"> 健康状態や生活面の実態について、情報交換ができましたか。(連絡帳、日々の送迎時、懇談など) 	100.0%	B	<ul style="list-style-type: none"> 日々の連絡帳や送迎時に情報交換を心がけ、体調や身の回りのことについて家庭や仁万の里と日常的に情報交換をしたり、学校の取組を発信したりすることができた。小学部では、学校での生活リズムの確立、歯みがきや食事などの個々の課題に対し、毎日の積み重ねを大切に丁寧に取り組んだ。家庭や仁万の里の協力もあり、できるようになったことが増えた。中学部では、個々の課題を授業で取り上げて個別に学習する取組を行い、連絡帳や学級通信などで保護者にも内容を伝えることができた。夏休み中の児童部見学、児童部との連絡会などに、保護者や養護教諭にも参加してもらうなどしたことは有意義であった。今後もより情報発信の工夫、支援方法の共通理解などについて考えていけると良い。 	A	
	<ul style="list-style-type: none"> 授業で取り上げて指導したことや学校での取組を連絡帳や学級だよりなどを利用して、保護者や仁万の里児童部に向けて発信することができたか。 	100.0%	100.0%	<ul style="list-style-type: none"> 生活面や健康面についての学校での指導や取組が伝わりましたか。(連絡帳、日々の送迎時、懇談など) 	100.0%	B		A	
高等部	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が見通しをもって学習に取り組み、自らの課題を見直し、達成感をもって振り返るような学習活動を設定し、支援することができたか。 	100.0%	91.7%	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が学校生活や学習活動を楽しみにし、目的意識や達成感をもって積極的に取り組んでいますか。 	86.7%	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校・学部行事に関する学習や生活単元学習等では、計画・準備の段階から生徒が考え、活動をすすめていくような学習内容を設定し、話し合いによる学習も積極的に取り入れ主体的に取り組んでいくようにした。対外的な行事においても生徒同士協力し合って自分から活動することができた。作業学習や進路学習においては働く姿勢や態度に留意して支援を積み重ね、働くことへの意識づけを図った。作業学習では具体的な成果も見え、生徒たちはやりがいをもって取り組むことができた。 	A	
	<ul style="list-style-type: none"> 日頃の教育活動や生徒の学習状況等について、保護者と密に連絡をとって情報交換、提供することができたか。 	95.8%	100.0%	<ul style="list-style-type: none"> 懇談や学級通信、連絡帳等により、日頃の教育活動の状況や生徒の学習の様子について情報提供・情報交換が適切に行われていましたか。 	92.9%	B		A	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営全般に関しては、教職員が元気で、教職員間でコミュニケーションがとれていると感じる。また、教職員一人一人がすべきことを理解して取り組んでいると感じる。 教員は、一生懸命やっているし、生徒もあいさつなどきちんとしている。 保護者や施設と共通理解を図って、教育活動に取り組んでいると感じる。 学校行事や対外的な行事を通して、いろいろな力をつけていると感じる。その力が卒業後の働く力につながっていると思う。 P T A 広報誌は素晴らしい。保護者の思いが表れており、保護者同士がわかり合えたり、学校の理解に役立ったりしている。 児童生徒のマナーアップは継続した指導が必要である。卒業までくり返し指導していく必要がある。先生方の努力に期待したい。 複数の教員で児童生徒一人一人の実態を検討し、客観的につかめることはとてもよいことと思う。このことにより授業改善もできていくと感じる。 現場実習が充実している。今後も進路指導の中核として継続していくとよい。職場開拓等には、商工会を利用するとよい。 事務部の対応はとてもよく、気持ちよく来校することができている。
総務	<ul style="list-style-type: none"> 余裕をもって月行事予定が示され、見通しのもてる計画であったか。 	96.3%	100.0%	<ul style="list-style-type: none"> 学校と保護者が連携しながらPTAの事業が行われていたと思いますか。 	100.0%	B	<ul style="list-style-type: none"> 行事予定については事前に各部署から予定を集約することで、ある程度見通しをもって提案することができた。事前に各部署と協議できることがあれば、提案前に事前協議をしておくようにしたい。 奉仕作業や養護まつりで保護者への連絡が不十分なところがあった。今後は事前に情報提供できるようにしていきたい。 	A	
	<ul style="list-style-type: none"> 他の予定との関係で無理な計画となっていないか。 	92.6%	100.0%			B		A	
教務	<ul style="list-style-type: none"> 保護者と支援を連携するにあたって、保護者懇談等が適切な日程に設定されていたか。 	96.3%	100.0%	<ul style="list-style-type: none"> 保護者懇談の回数や日程は、適切でしたか。 	100.0%	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者懇談は回数・日程ともに適切であり、児童生徒の課題や支援の方向性について話し合いの有効であったと思われる。今後も日程については保護者と調整しながら、ある程度柔軟に対応したい。指導検討会は、現場実習中に行ったり長めに期間を設けたりしながら、十分に話し合いができるよう日程を設定したい。 	A	
	<ul style="list-style-type: none"> 各児童生徒の目標設定や評価、情報共有ができるよう、指導検討会の日程が設定されていたか。 	96.3%	100.0%	<ul style="list-style-type: none"> 保護者懇談では、担任とお子さんの成長や課題・支援の仕方について話し合うことができましたか。 	100.0%	B		A	
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導の強化週間を通して、ルールやマナーについて児童生徒に適切に指導ができたか。 	81.5%	79.2%	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣、ルール、マナーについて適切に指導、支援が行われていましたか。 	80.0%	B	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続して行う。その際、ルール、マナー等について、教職員間で確認しあえるよう、時間を確保する(職員会、学部会など)。児童生徒心得や長期休業中のくらしの項目について取り上げ、検討していくことも考える。 	B	
	<ul style="list-style-type: none"> 職員会等で話し合ったルールやマナーについて教職員で共通理解が図れたか。 	76.9%	87.5%	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の子どもや保護者等への接し方は適切だと思いますか。 	75.0%	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒会で設定している目標について、もっと意識して生活できるようにしていく。生徒が主体となって働きかけができるようにする。 生徒の呼び方や接し方について、適切に行えるようさらに意識をもっていく。教職員の心得を活用しながら理解啓発を促す取り組みを検討し、実践する。 	B	
研修相談	<ul style="list-style-type: none"> 前年度の重点目標の評価を行って研究目標を設定したことは、児童生徒の課題に迫る授業づくりに役立ったか。 	100.0%	100.0%			B	<ul style="list-style-type: none"> 2学期には、全ての研究グループの公開授業を実施できた。指導案に研究目標を明示し、各研究グループの意向を大切に、授業を見る視点について事前に感想カード等で提示したことで、ある程度視点を絞った協議をすることができた。参観する児童生徒を事前に決めて小人数で協議を行うなどの工夫をしたが、全校研の出席率も良く、一人の子どもについて学校全体で考える貴重な機会となった。毎回のまとめを含め、各研究グループの研究や、ふだんの指導に役立ったと感じている。今後、研究目標と重点目標をどのようにリンクさせて、授業や指導の充実に役立てていくかを考える必要がある。 	B	
	<ul style="list-style-type: none"> 研究目標を設定し、抽出児童生徒の課題や支援方法について話し合ったことは課題を明らかにするのにつながったか。 	96.3%	100.0%			B		B	
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> アンケートを実施し、保護者や教員のニーズを把握し、それに応じた研修会が実施できたか。 	75.0%	95.7%	<ul style="list-style-type: none"> 現場実習が充実していると思いますか。 	94.4%	B	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの実施や懇談等での聞き取りを通じて、進路指導や支援に関するニーズを把握し、それをふまえた研修会を実施することができた。今後も、進路指導部と各担任との連携を密にしながら、こまめに情報提供ができるようにしていきたい。研修会に関してはより多くの方に参加してもらえようという時期や内容を考慮しながら計画をしていきたい。特に保護者の参加が増えるよう早めの周知や呼びかけ方の工夫をしていきたい。 	B	
	<ul style="list-style-type: none"> お便りや懇談等において、進路に関する情報の提供は十分だと思いますか。 				90.0%	B		B	
事務部	<ul style="list-style-type: none"> 学校会計、就学奨励費の支給など事務部が担当する分掌が正確、公平かつ迅速に運営できるよう教員、保護者と連携が図れたか。 	100.0%	100.0%	<ul style="list-style-type: none"> 学校会計、就学奨励費の支給など事務部が担当する分掌が正確、公平かつ迅速に運営できるよう教員、保護者と連携が図れていましたか。 	82.4%	B	<ul style="list-style-type: none"> 学校会計、就学奨励費などの業務で、保護者にお願いしなければならない事柄は引き続き教員と連携して、丁寧かつ正確に伝達できるよう心がける。 	A	
	<ul style="list-style-type: none"> 電話や来校者の対応は正確かつ丁寧で、相手が不快に思うことはなかったか。 	100.0%	100.0%	<ul style="list-style-type: none"> 電話や来校者の対応は正確かつ丁寧で、相手が不快に思うことなく対応できていましたか。 	89.5%	B	<ul style="list-style-type: none"> 特に、就学奨励費は認定及び支給事務ともに複雑なため、引き続き制度理解に努める。 電話や来校者に対する応接は、正確かつ丁寧でできていると評価を得ている。常に窓口業務は「学校の顔」という意識をもち対応する。 	A	